

# 第11章 人づくり・環境学習等

## 第1節 人づくりの推進

### 1 ESD ユネスコ世界会議の成果と継承

#### (1) ESD ユネスコ世界会議の成果【環境政策課】

2014年11月10日から12日まで、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）及び日本政府の主催で、「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」が開催されました。この会議は、「国連ESDの10年」における各国のESDの取組の成果の共有を図り、2014年以降の方策を議論する大変重要な国際会議でした。

ESDユネスコ世界会議では、「国連ESDの10年」の活動を振り返るとともに、2015年以降のESDの推進方策として5つの優先行動分野が示された「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」を今後推進していくための議論が行われました。この会議の最終日には、GAPを後押しし、2015年以降に各国の政策にESDを取り入れることを呼びかける「あいち・なごや宣言」が採択され、この宣言は翌月（12月）に国連総会で決議されました。

#### 【ESDとは】

Education for Sustainable Development の略で、「持続可能な社会を支える担い手づくり」のことで、国連などが中心となって世界中で進められている取組で、環境、貧困、人権、平和など人類を取り巻く様々な課題を自らの問題とし、環境・社会・経済を統合的かつ総合的に捉え、持続可能な社会の実現に向けて行動できる人を育てる取組です。

#### (2) 成果の継承【環境政策課、環境活動推進課、生涯学習課】

国は、ESDをより一層推進していくため、NPO、教育機関、地方自治体、企業等の関係者を構成員とした「持続可能な開発のための教育円卓会議」を2015年に設置し、GAPを踏まえたESD国内実施計画の決定に向け、議論を行いました。その後も、円卓会議を毎年開催し、計画の実施等、今後のESD推進方策に関する意見交換を行っています。

また、この計画に基づき、持続可能な地域づくりと人づくりを支援する「ESD活動支援センター」（全国センター及び全国8か所の地方センター）を開設しました。当地域では中部地方ESD活動支援センター（名古屋市）が、情報共有やネットワーク形成など、ESDを広め、深めるための働きかけや活動支援を行っています。

県は、2005年の愛知万博や、2010年のCOP10の開催により、「持続可能な社会」の大切さへの意識が高い地域ですが、ESDユネスコ世界会議の開催を通じて、環境面における「人づくり」を多

様な主体と連携・協働して地域全体で取り組んでいくことが重要であることを改めて認識し、新たな「人づくり」の推進に向けて取り組んでいます。

特に、ESDユネスコ世界会議の「あいち・なごや宣言」では、①ユースをキーとなるステークホルダーに巻き込み尊重すること、②ユースの課題解決能力等の能力育成を強化することが重要とされたことから、県では、2015年度以降、次世代の地域の担い手となる大学生や高校生を対象にした「人づくり」プログラムを順次展開し、ESDユネスコ世界会議の成果を踏まえた取組を推進しています。

なお、学校現場でのESDの推進拠点として位置付けられている「ユネスコスクール」に、本県では161校（2019年7月時点）が加盟しています。

## 2 持続可能な未来のあいちの担い手育成【環境政策課】

### (1) かがやけ☆あいちサステイナ研究所

県は、近い将来、地域の担い手となる大学生が、グローバルな視点を持って、継続的に環境配慮行動を実施していくプログラムとして「かがやけ☆あいちサステイナ研究所」を2015年8月に立ち上げました。本研究所は、大村愛知県知事を所長とし、パートナー企業・団体から提示された環境面での取組に関する課題に対し、研究員である大学生が現場での調査や企業・団体担当者とのディスカッションを通して、解決策を企業・団体側に提案し、その成果を広くPRしていくものです。



かがやけ☆あいちサステイナ研究所の概要

### (2) 2018年度の研究所プログラム

2018年度は多くの応募者の中から選考された40名の大学生を研究員として採用しました。また、パートナー企業・団体は2017年度と同じく10社

ですが、うち5社は今回から新たに参画していただきました。

2018年度のパートナー企業・団体10社から研究員へ与えられた研究課題は、各企業・団体が直面している環境に関する問題などであり、研究課題として魅力的な内容でした(表11-1-1)。

### (3) 研究員の活動

研究員は6月17日の開所式を皮切りに、本格的に活動をスタートし、基礎講座(2日間)、企業環境活動研究(4日間)、成果発表準備(2日間)、研究成果発表会(1日間)、出張成果発表会(2日間)、地域環境活動の実践(2日間)などの活動を2018年12月まで実施しました。

特に企業環境活動研究では、研究員は自主研究してきた内容と実際の現場との比較や、企業・団体の担当者から生の声を直接聞くなど、非常に貴重な経験を得ていました。



企業環境活動研究 (株伊藤園)



企業環境活動研究 (積水ハウス株)

表 11-1-1 2018年度パートナー企業・団体からの研究課題

パートナー企業・団体	研究課題	パートナー企業・団体	研究課題
イケア・ジャパン(株)	サステナビリティに対する意識を高めるお客様参加型イベントを検討	スターバックス コーヒー ジャパン (株)	私たちの社会貢献活動に共感し行動できる仲間を増やす企画を検討
(株)伊藤園	「お茶で愛知を美しく。」環境活動を広げる方策を検討	積水ハウス(株)	100年後を見据えた「環境配慮型住宅」を検討
花王(株)	SDGs 達成に貢献する未来の「お洗濯」を提案	(株)デンソー	“smart move”を実践し、社会に普及させる方法を検討
J Aグループ愛知	若者が農業の環境保全機能を実感し農業応援団となるPR方策を検討	トヨタ車体(株)	トヨタ車体ふれ愛パークを拠点とした新たな環境イベントを検討
新日鐵住金(株)	LCAの視点による鉄の環境へのやさしさについて広く普及する方策を検討	中日本高速道路(株)	NEXCO 中日本の環境取組のPR方法を検討

#### (4) 研究成果発表

研究員が6月の開所式以来、約半年間をかけて、まとめた研究成果を発表する「かがやけ☆あいちサステイナ研究所 成果発表会 2018～考えよう！未来の環境～」を12月2日に開催しました。

約340名の来場者の前で、自分達の研究成果を9分間という短い時間の中で発表しました。どのチームの提案も、大学生ならではのアイデアあふれるものであり、パートナー企業・団体から、「実現に向けて検討していきたい」などの評価をいただきました。

発表後には、修了式を実施しました。研究員代表者としてチーム・トヨタ車体の尾崎巧おぎきたくみさんが大村知事から修了証を



修了証授与の様子

受け取り、今後の環境リーダーとして活躍する意気込みを述べました。大村知事からは、「研究活動で大いに議論したこの経験を今後の環境活動で生かし、持続可能な未来のあいちの担い手として活躍してほしい」とのコメントがありました。

また今回は、4名の審査委員による審査で最優秀賞及び優秀賞、来場者投票でオーディエンス大賞を選定し、表彰式で表彰しました。



受賞チームの皆さん

栄えある最優秀賞には、社会貢献活動に共感し行動できる仲間を増やす企画という課題に対し、お客様、従業員等の「人のつながり」を通じてその意義を伝える仕組みを提案、それが評価されたチーム・スターバックスが、優秀賞及びオーディエンス大賞にはチーム・Kaoが選ばれました。

#### 3 中高年・シニア環境学習推進【環境活動推進課】

豊かな知識や経験を有する中高年世代の方に環境学習の講師として活躍していただくため、2018年度に「あいち eco ティーチャー養成校」を開校し、7月28日（土）の開校日から研修や

実践を経て28名を「あいち eco ティーチャー」として養成しました。

養成された「あいち eco ティーチャー」には、今後、学校や環境学習施設等における環境学習の講師として活躍していただきます。



#### (1) あいち eco ティーチャーの養成

応募のあった中高年・シニア世代の受講生は、環境に関する講義や、講座作りのノウハウを学ぶための研修を受けると共に、主に小学生を対象とした5つのオリジナルの講座を作成しました。

さらに、このオリジナル講座を冬休み環境学習講座として子どもたちとその保護者に対して実際の講座も実施しました。

これらの研修を経て28名が「あいち eco ティーチャー」として修了し、2019年3月に修了式を行いました。



研修の様子



講座の実施

#### (2) 世代間交流ミーティングの実施

「あいち eco ティーチャー養成校」の参加者と、高校生による地域の環境課題に対する調査・研究事業「あいちの未来クリエイト部」の参加者との交流の場として「世代間交流ミーティング」を3月2日（土）に開催しました。ここでお互いが作成したプログラムを実施し、より良い伝え方について意見を出し合う等、世代を超えた交流を行いました。



世代間交流ミーティングの様子

2019年度から、「あいち eco ティーチャー」を環境学習講座の講師として派遣して、子ども達が環境について楽しく学べる講座を実施しています。講座の内容は、水とごみをテーマにした以下の5つのオリジナル講座です。

派遣を希望される方は、以下のウェブページを御覧ください。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/ecoteacher.html>



テーマ	講座一覧
ごみ	<p><b>1 どこへいく? プラスチックごみの真実!</b>  <b>【目的】</b>                      プラスチックのリサイクルの流れや、プラスチックごみが海に住む生き物に与える影響を体験を通して知ることにより、プラスチックごみを減らすための行動を促します。  <b>【特長】</b>                      実際に愛知県内の海に捨てられていたプラスチックごみやマイクロプラスチックに触れることができます。</p>
	<p><b>2 食べ物とごみのさかい目はどこ? ~ごみをなくそう大作戦!~</b>  <b>【目的】</b>                      食品ロス(食べられるのに捨てられてしまう食品)についてカードゲームで楽しく学び、普段の生活で食品ロス削減に取り組む意識を育みます。  <b>【特長】</b>                      様々な食べ物のカードや大根の写真を使ったゲームにより楽しみながら食品ロスについて学びます。</p>
水	<p><b>3 きみは水なしで生きられるか!?</b>  <b>【目的】</b>                      節水することの大切さを実感するとともに、水を無駄遣いしないために何ができるかを考え、行動につなげます。  <b>【特長】</b>                      20ペットボトルの写真を並べ、1日に使っている水の量(200ℓ~300ℓ)を示した絵巻は圧巻です。</p>
	<p><b>4 見えない水を見る!?! ~節水大作戦~</b>  <b>【目的】</b>                      普段どれくらいの水を使っているのかをポリタンクの量でみえる化し、水を無駄遣いしないための節水大作戦をグループで考え、行動を促します。  <b>【特長】</b>                      蛇口の水からぼたぼた落ちていた水はどれくらい? など、普段無駄使いしている水を可視化します。</p> <div data-bbox="943 1406 1409 1632" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">講座の様子</p>
	<p><b>5 水の惑星地球を救え! ぐるぐるトルネード実験</b>  <b>【目的】</b>                      水の循環について学び、水を使うことが水を汚していることを理解します。人間が必ず使うトイレに注目し、トイレに異物を流してしまったらどうなるのか実験し、水を汚さないために何ができるかを考え、行動につなげます。  <b>【特長】</b>                      トイレトペーパーとティッシュペーパーを使ったぐるぐるトルネード実験は子どもたちに大人気です。</p> <div data-bbox="1019 1722 1394 1980" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">ぐるぐるトルネード実験の様子</p>

#### 4 高校生の環境学習推進【環境活動推進課】

##### (1) あいちの未来クリエイト部

2017年度から開始した「あいちの未来クリエイト部」は、県内の高校生のグループが、専門家や活動全体の進行を補助するファシリテーターの支援を受けながら、環境に関する調査・研究を行い、その結果を基に環境学習教材を作成し、活用する事業です（表 11-1-2）。

2018年度は、県立海翔高等学校 エコ・防災クラブ、県立豊橋東高等学校 グループ GLOBE、中部大学第一高等学校 科学部の3グループが、参加しました。

##### (2) 調査・研究活動

2018年度は参加グループがそれぞれ、テーマを設定し、専門家から基礎講座や調査の方法の指導を受けながら、調査を実施しました。また、2018年11月17日、18日に開催された県主催の環境イベント「Let's エコア



クション in AICHI」において、調査・研究の成果の発表を行いました。



生物の調査（県立海翔高校）

##### (3) 環境学習教材の作成・活用

調査・研究の成果を基にボードゲームやカードゲームといった、小学生等若い世代も楽しめる環境学習教材を作成しました。

作成した環境学習教材は、地域のイベント等で県民の方々に体験していただきました。



県民の方へ教材の体験（県立豊橋東高校）

表 11-1-2 2018年度あいちの未来クリエイト部参加グループの調査・研究内容及び作成した教材

参加グループ名	調査・研究内容	作成した教材・その概要
県立海翔高等学校 エコ・防災クラブ	三ツ又池の水生生物調査及び水質調査	・すごじん すごろくを楽しみながら、人の暮らしと生き物のかかわりについて学べるボードゲーム
県立豊橋東高等学校 GLOBE	東三河にあるジオサイトの現地調査	・GEO（ジオ）カード 東三河地域のジオサイトや植物などについて学べるカードゲーム
中部大学第一高等学校 科学部	ウシモツゴの生態や保護活動の調査	・ウシモツゴタワーバトル ・ウシモツゴを探せ！ウシモツGO！！ ウシモツゴが生きるために必要な環境を学び、希少性を実感できるゲーム

#### 5 未就学児を対象とした自然体感プログラムの推進【環境活動推進課】

県では、「まなびやもりの学舎」において、人と自然をつなぐ役割を果たす森の案内人「インタープリター」により、未就学児を対象として、幼いうちか

ら自然に触れ、学び、気付きを得る機会を提供する事業を実施しています。

##### (1) もりの学舎ようちえん

未就学児とその保護者を対象に、もりの学舎やその周辺で、四季を通して自然体感プログラムを

実施しています。

2018年度は30組の親子が全6回のプログラムに参加し、インタープリターとともに森の探検や森の木を使ったスプーン作りなどを行い、楽しみながら自然とふれあいました。参加した保護者からは「葉の裏をみたり、においをかいだり、五感を使って自然と触れあえるようになった」との声をいただきました。回を重ねるごとに、子どもたちが五感を使って自然を楽しめるようになり、自然に対する感性が育まれている様子が伺えました。



スプーン作りの様子

### (2) 一日もりの学舎ようちえん

県内の幼稚園・保育園等を対象に、もりの学舎やその周辺で1日(又は半日)で行う自然体感プログラムを実施しています。

2018年度は11園が参加し、参加した園からは「普段体験できないことに思い切り取り組めて良かった」との声をいただきました。



葉っぱで木を作ろう

### (3) 森の伝道師派遣

インタープリターを県内の幼稚園・保育園等に派遣し、園庭等の身近な環境で行う自然体感プログラムを実施しています。

2018年度は16園で実施し、参加した園からは「園庭内での新たな発見があった」「自然物を使った遊びを教えていただいたので、日々の保育に取り入れていきたい」という声をいただきました。



自然物で顔をつくる

### (4) 子ども自然体感活動指導者養成研修

保育士、幼稚園教諭やその職を志す学生等を対象に、園児に自然体感プログラムを実施するノウハウを身に付ける研修を実施しています。

2018年度は尾張地区と三河地区で研修を実施し、尾張地区29名、三河地区25名が参加しました。参加者自身が自然体感プログラムを体験することで感性を広げるとともに、自らがプログラムを未就学児に対して実施するスキルを学びました。研修生から「今回の研修に参加しなければ、こんなに自然を使った遊びを知らずに過ごしていた。身近な自然で楽しむことを考えるきっかけになった」などの声をいただきました。



プログラムの体験

## 6 エコアクションの推進

### (1) あいちエコアクションの推進【環境活動推進課】

県では、県民の環境に対する意識を地域全体の行動へと広げていくため、地球にやさしい身近な環境配慮行動を实践へとつなげる「あいちエコアクション」を推進しています。

この「あいちエコアクション」の輪を大きく広げていくために、県民参加型の啓発イベントを開催するとともに、県内の環境学習施設との連携やウェブサイト「エコリンクあいち」の活用に取り組んでいます。

#### ア 啓発イベントの開催

エコアクションを楽しみながら学ぶことができる県民参加型の啓発イベントとして、2018年度は、11月17日(土)、18日(日)の2日間、アスナル金山で「Let's エコアクション in AICHI」を開催し、約1万5千人の方が来場されました。ジブリソング歌手の井上あずみさんによるミニコンサートや知事とのトークショー、あいちエコアクション広報部のOS☆Uによるパフォーマンス、My エコアクション宣言、環境を題材としたワークショップなどにより、子どもから大人までの幅広い層にエコアクションへの理解を深めていただきました。



My エコアクション宣言



ワークショップ

## イ <sup>あえる</sup> AEL ネットの活用

県内の環境学習施設のネットワークである愛知県環境学習施設等連絡協議会（AEL ネット）を活用して、県民の皆様に気軽に楽しく「エコアクション」へと踏み出す機会を県内各地で提供しています。

AEL ネットは「Aichi Environmental Learning Network」の頭文字をとったもので、2019年9月末現在で、184施設 38市町村が加盟しており、これらの施設等では、環境全般、エネルギー、自然、ごみを減らす3R、水環境などについて学習することができます。

2018年度はAEL ネット加盟施設のうち172施設等が連携して環境学習スタンプラリーを実施し、67,886人の参加がありました。

## ウ エコリンクあいちの活用

様々な環境活動情報やイベント情報の発信、情報交換により活動団体の交流の輪を広げることを目的に、ウェブサイト「エコリンクあいち」(<http://aichi-eco.com>)を運営しています。

### (2) 自発的な環境配慮活動の促進

## ア 食を通じた環境配慮活動の促進【食育消費流通課】

県は、「あいち食育いきいきプラン2020」（第3次愛知県食育推進計画（2016年3月作成））において、「食を通じて環境に優しい暮らしを築くこと」を食育推進の柱の一つとして設定しています。この中で、「食べ物を残さず食べるようにするなど、学んだ知識をもとに自ら行動する」、「食べ残しや食品の廃棄を減らす」などと県民の主体的な取組を促すとともに、県や関係団体等による実践に向けた10の取組項目を掲げています。

これまでに、県、関係団体、市町村等が様々な取組を実施していますが、「むだや廃棄の少ない

食事づくりを積極的に行っている」県民の割合は、2018年度では37.9%で、2015年度（41.8%）から減少しました（目標は2020年度50%以上）。

2018年度の主な取組は以下9事例であり、これらの具体的な内容については、県が作成した「あいち食育いきいきレポート2019」に掲載し、広く関係者に紹介しています。

### 【環境配慮活動の具体的取組】

- 食生活における環境への配慮の徹底（3事例）
  - 「おから味噌」作りを通じた食品ロス削減教室、食品リサイクル工場見学ツアー ほか
- 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進（4事例）
  - 「豊橋市場まつり」における地元産食材の販売、親子工場見学会の開催 ほか
- 農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底（2事例）

県内各地でのフードドライブ活動の実施

## イ グリーン購入の促進【環境活動推進課】

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。

グリーン購入は、消費生活など購入者自身の活動を環境にやさしいものにするだけでなく、供給側の企業に環境負荷の少ない製品の開発を促すことで、経済活動全体を変えていく可能性を持っています。

県は、岐阜県、三重県、名古屋市、環境ラベルの管理運営団体、グリーン購入の普及推進団体、スーパーマーケットやドラッグストアなどの販売店、メーカーなどと協働して、2002年度から毎年度「東海三県一市グリーン購入キャンペーン」を実施し、グリーン購入の普及に努めています。

2018年度は、2019年1月11日から2月10日までの1か月間をキャンペーン期間として、東海三県内等の4,724店舗とともに、以下の取組を実施しました。

- ① 店舗内でのポスター、POP等の掲示や、詰替商品、環境ラベル商品、旬のもの・地のもの等のグリーン購入対象商品を集めたコーナーの

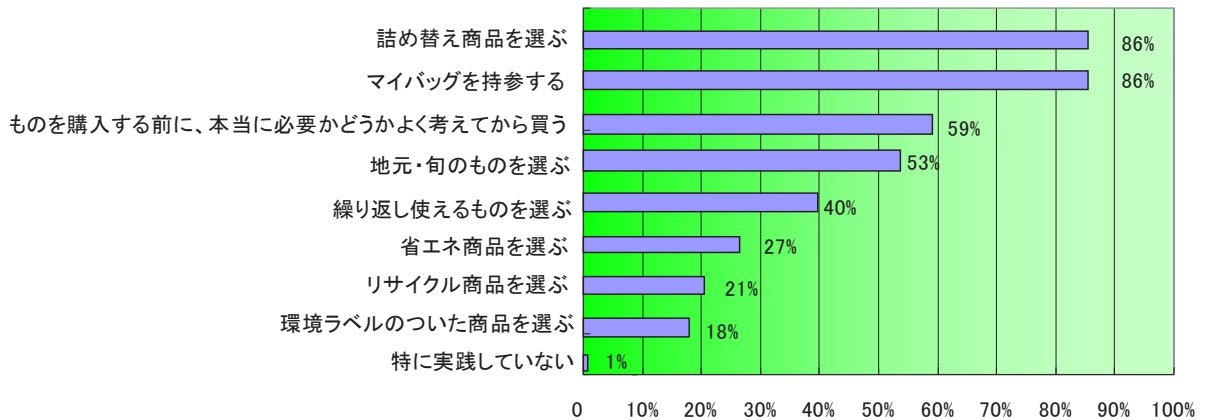
設置

- ② グリーン購入対象商品を購入した方を対象に、環境に配慮した商品のセット等が当たる懸賞応募を実施
- ③ 環境対応商品の紹介など、協力店舗による独自企画を実施
- ④ 店舗・メーカー・環境ラベル団体との協働で、グリーン購入について啓発する展示、クイズ等

からなるイベントを実施（愛知県は稲沢市のリーフウォーク稲沢で実施）

- ⑤ キャンペーン前に店舗やメーカーの担当者を対象に、当年度実施する取組の内容について意見聴取を実施し、キャンペーン終了後に店舗・メーカー・環境ラベル団体の担当者を対象にキャンペーンの実施報告及び次年度以降の効果的な実施等に対する意見交換会を開催

図 11-1-1 普段の買い物で実践している「グリーン購入」（キャンペーン参加者へのアンケート結果）



（注）2019年1月11日～2月10日実施 （資料）東海三県一市グリーン購入キャンペーン実行委員会調べ

### ウ 地域環境保全委員の設置【環境活動推進課】

県は、地域における環境の状況を把握し、その保全に関する活動を推進するため、**愛知県環境基本条例**第19条の規定に基づき、地域環境保全委員を委嘱しています。

委員は、地域における環境保全に関心及び知識を有し、かつ、環境保全に関する活動に熱意を有する人の中から、市町村長の推薦を受けて知事が任命し（定員200人、2019年4月1日

現在）、それぞれが担当市町村において以下のような活動を行いました。

- 地域の環境の状況調査・報告
- 県が行う環境保全施策への協力・環境保全に関する啓発、指導等
- 地域における環境保全のための自主的な活動への参画、指導等
- 県が主催する地域環境保全連絡会議等への出席

## 第2節 環境学習等の推進

### 1 環境学習の推進【環境活動推進課】

環境問題は、私たちの暮らしや経済・社会と密接に関わっており、環境問題を解決するためには、問題の本質や取組の方法を自ら考え、解決する能力を身に付け、何よりも行動に結びつけていく環境学習が不可欠です。

このため、県は、2005年1月に「**愛知県環境学習基本方針**」を策定し、「**あいち環境学習プラザ**」

（愛知県東大手庁舎1階）及び「**まなびや**」（愛・地球博記念公園内）を拠点にして、環境学習講座などを実施してきました。

2012年10月に**環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律**が施行されたことに伴い、県では2013年2月に「**愛知県環境学習等行動計画**」を策定しました。その後、2018年3月にこれを見直し、持続可能な社会を支える「行動する人



づくり」を目的とした「愛知県環境学習等行動計画 2030」(以下本節において「行動計画 2030」という。)を策定し、環境学習の一層の推進に取り組んでいます。

### (1) 愛知県環境教育等推進協議会の開催

県では行動計画 2030 の推進のため、学校教育及び社会教育の関係者、県民、事業者、NPO、学識経験者、行政等で構成する愛知県環境教育等推進協議会を設置しています。

2018年度は協議会を2回開催し、行動計画 2030 の推進に関する意見交換等を行いました。

### (2) 環境学習の拠点施設での取組

#### ア あいち環境学習プラザ

県の環境学習を担う拠点施設「あいち環境学習プラザ」では、簡単な実験などを交えた環境学習講座を実施するとともに、環境学習情報の収集・発信、環境学習に関する人材の養成研修など各種の事業を実施しています。



あいち環境学習プラザでの講座

## イ もりの<sup>まなびや</sup>学舎

自然体験型の環境学習施設「もりの学舎」では、愛知万博で実施されたプログラムを継承・発展し、土・日・祝日等を中心に様々な環境学習プログラムを実施しています。

また、2011年度からは事業者と連携・協働した学習プログラムも実施しており、開館(2007年3月)以来の入館者数は575,710人、プログラム参加者数は231,955人(2019年4月末)となっています。

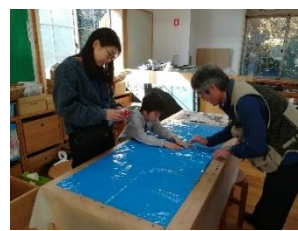
#### もりの学舎連携事業者一覧 (2018年度、五十音順)

- (一社)愛知県環境測定分析協会
- (一社)愛知県産業廃棄物協会
- (公財)愛知臨海環境整備センター
- (株)環境科学研究所
- 積水ハウス(株)
- (一財)東海技術センター
- 東京海上日動火災保険(株)
- 東邦ガス(株)
- 名古屋キワニスクラブ

### 【2018年度「もりの学舎」事業実施状況】

○プログラム参加者数：17,152人

内 容	参加者数
インタープリターとあるく森のツアー(毎週土・日・祝日) インタープリターともり遊びにいこう(毎週土) など	5,363人
あそび工房 インタープリターによる自然素材やリサイクル素材などを使った工作教室 (GWや夏休みなどの特定日、1日2回又は3回)	3,643人
その他の事業 もりの学舎キッズクラブ、おさんぼ de いきものみつけ、げんきの森づくり、夏・冬おやこクラフトなど(随時開催)	8,146人



あそび工房



おさんぼ de いきものみつけ

○来館者数：36,619人

### (3) 環境学習コーディネーターの活用

環境学習は、具体的な行動に結びつけていくことが重要であり、そのためには、地域を教材とした自然体験や社会体験などを通して実感を持つ

て学ぶことが非常に有効です。またこのような体験型の環境学習を地域や学校等で推進するためには、地域、学校、NPO、事業者、行政等が連携・協働し、各主体のノウハウを生かしあうことが重

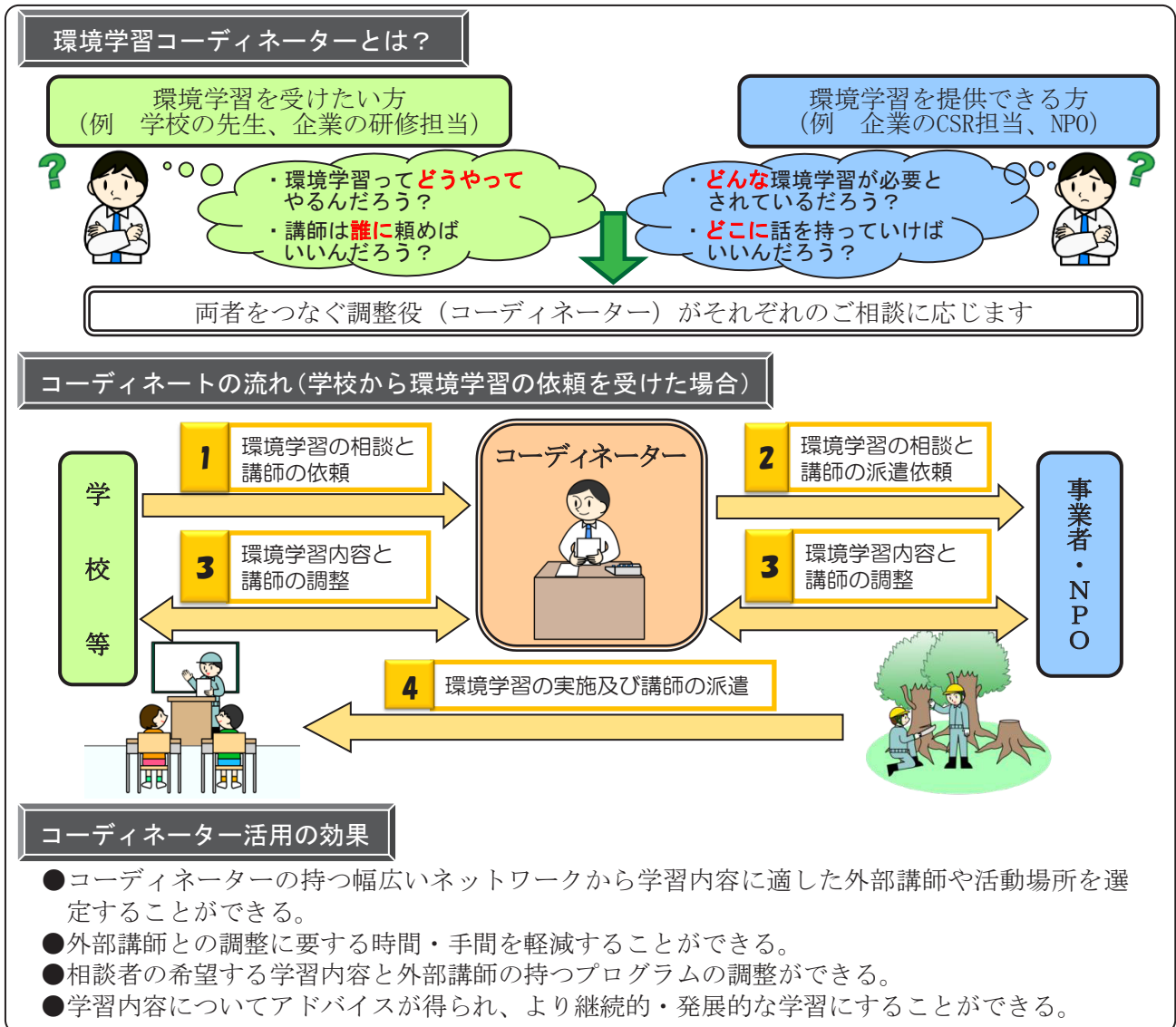
要です。

このため、県では 2013 年度から「環境学習コーディネーター」をあいち環境学習プラザに設置し、講師・活動場所の紹介といった相談業務や、講師と相談された方の中に入って、講義の日程や

学習内容の調整などを行うコーディネート業務を実施しています（図 11-2-1）。

2018 年度の依頼件数は、相談業務が 13 件、コーディネート業務が 21 件でした。

図 11-2-1 環境学習コーディネーターについて



#### (4) 愛知県環境学習施設等連絡協議会の運営

県は、愛知県環境学習施設等連絡協議会（AEL ネット）を設置し、県内の環境学習施設や市町村などに参加してもらい、それぞれが保有する環境学習プログラムや指導のノウハウ等の情報を共有するなど、各施設間のネットワークづくりを進めています。

2018 年度は、協議会を 2 回開催し、協議会加盟施設である「エコパルなごや（名古屋市）」、「夢と学びの科学体験館（刈谷市）」の施設見学とプ

ログラム体験を行いました。

#### (5) こどもエコクラブ活動への支援

環境省の呼びかけにより始まった「こどもエコクラブ」は、子どもたちが地域の中で楽しみながら自主的に環境活動・学習を行うクラブで、県内では、2018 年度末で 63 クラブ 4,966 人がリサイクル・美化活動・自然観察会など様々な活動を行っています。

県は、地方事務局としてこどもエコクラブの活動の支援を行いました。

## 2 学校における環境教育の推進【義務教育課、高等学校教育課、環境活動推進課】

学校教育における環境教育は、社会科（高等学校においては、地理歴史科及び公民科）、理科、生活科、家庭科（中学校においては技術・家庭科）、保健体育科、道徳科等の関係教科及び総合的な学習（探究）の時間、特別活動など、それぞれの目的に即して取り上げられています。

県で行っている環境教育の指導方針は、次のとおりです。

- 環境問題に関心をもたせ、環境の保全やよりよい環境の創造のために主体的に取り組む態度と能力を育てる。

○ 自然と触れ合う機会を多くもたせ、豊かな感受性や創造性を育てる。さらに、身近な事象の中から問題を見付け、意欲的に問題を解決していこうとする態度と能力を育てる。

○ 自然環境の状況は、地域によって異なるため、地域の実態に合った身近な問題を取り上げ、具体的な活動を通して学習できるように工夫する。さらに、生涯学習として発展させていくために、学校、家庭、地域社会との連携の中で継続して展開していく。

2018年度は、学校における環境教育の推進を図るため、次の事業などを実施しました（表 11-2-1）。

表 11-2-1 学校における環境教育推進事業例（2018年度）

事業	内容
環境学習副読本の作成・配付	県内の小学校の4年生に対し、環境学習副読本「わたしたちと環境」を作成・配付（名古屋市立は各校1冊配付）
心の教育推進活動の実施	県内の小・中学校において、家庭・地域との連携を基盤に、環境保護、自然との触れ合い、奉仕、福祉等の体験を重視した教育活動を実施
あいちグリーンウェイブ運動	県内の小・中学校において、5月22日の国際生物多様性の日を中心に、ドングリの植樹・水やり、植樹や生物多様性に関わる講話、必要に応じたイベントなどを実施

（資料）環境局・教育委員会調べ



2018年度版環境学習副読本「わたしたちと環境」

## 3 環境月間行事の実施【環境活動推進課】

1972年6月5日から2週間、スウェーデンのストックホルムで国連人間環境会議が開催されたことから、国連は6月5日を「世界環境デー」と定め、日本でも環境基本法により「環境の日」と定めています。

また、環境省の主唱により、1991年度から、毎年6月の1か月間を「環境月間」（1973年度から1990年度までは6月5日を初日とする週間を「環境週間」としていました。）とし、環境問題の重要性を認識するとともに将来に向かってよりよい環境を創出するための努力と決意を新たにす機会として、各種の記念行事を実施しています。

県においても、毎年、環境月間に各種の行事を実施しており、2018年度は、6月5日に県本庁舎正庁で「環境保全関係功労者表彰式」を開催しました。表彰式では、県内の環境保全に関し顕著な功績があった2団体と23名の受賞者が、知事から愛知県産の間伐材を使った表彰状等を受け取りました。



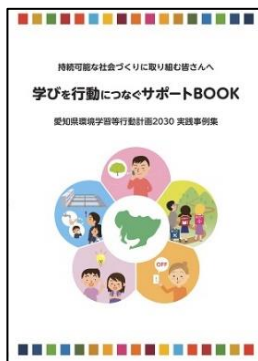
環境保全関係功労者表彰式

「持続可能な社会を支える『行動する人づくり』」を一層効果的に進めるため、愛知県環境学習等行動計画 2030 実践事例集「学びを行動につなぐサポート BOOK」を 2019 年 3 月に作成しました。

この冊子では、一人一人が「環境問題を知っている」でとどまらず、「問題解決に向けて行動する」ようになることを目指し、学習者が行動につなぐ力を身につけることを指導者（学校、事業者、NPO、地域コミュニティ、行政等）がどうサポートすればよいか、具体的な事例をあげて分かりやすく紹介しています。

県では、地域の団体・企業・社会教育施設等や教員の方を対象とした「協働授業づくり研修」を 2019 年 7 月 31 日及び 8 月 19 日に行い、学習者が行動につなぐ力を身につけるために、効果的な授業を行うための教材としてこの冊子を活用しました。

今後も引き続き、この冊子を活用するなどして、環境学習等の質を一層高めるための取組を推進していきます。



学びを行動につなぐサポート BOOK



サポート BOOK の活用の様子



検討結果の発表

### 第3節 国際環境協力の推進

#### 1 国際環境協力の推進【環境政策課】

1960 年代の深刻な公害を克服してきた本県には、公害防止対策に関する知識、経験等の大きな蓄積があります。アジア諸国を中心に公害に悩む開発途上国は多く、それらの国々に対し、県は

(独)国際協力機構(JICA)などと提携した環境協力を進めてきました。

2018 年度には、表 11-3-1 のとおり、計 94 名の行政職員等の受入れを行いました。

表 11-3-1 国際環境協力の実績 (2018 年度)

国名等	人数	期間	主な研修・調査内容
タイ・バンコク都 (事務次官ほか)	33 名	1 日	知事表敬、「地球温暖化とトヨタ・ミライ」に関するセミナー
カンウォンド 韓国・江原道 (江原大学校大学生)	4 名	4 日	環境部長表敬、生物多様性の保全に関する視察、愛知教育大学との交流
中国・江蘇省 (副省長、環境保護庁庁長ほか)	17 名	1 日	環境取組に関する意見交換、環境保全に関する協定締結、愛知目標達成に向けた国際先進広域自治体連合への加盟依頼
中国 (環境投資連盟、清華大学環境学院、中国企業)	29 名	1 日	廃棄物処理に関する研修
JICA 研修員 (タイ、メキシコ、ブラジルほか)	11 名	1 日	本県の自動車環境戦略に関する説明